

令和4年7月14日

尾張旭市議会議長 殿

尾張旭市議会議員政治倫理審査会会長 殿

松原 たかし

7月12日に開催された政治倫理審査会において回答をいたしました。が、回答できなかった部分などについて追加して回答するとともに、自身の発言及び質疑応答部分を文章化しましたので提出いたします。

Q 山下議員が7月5日提出の資料について事実と相違点。

● 1ページの24行目「休憩中なら何を言ってもいいのか。」とありますが、私は「休憩中なら」とは発言していません。「何を言ってもいいんですか。」と発言しています。

● 1ページの29行目から2ページの1行目にかけて「両者同時に立ち上がった事実につきましては、会議を通して録音が行われている事務局データに目撃者からの音声で確認できます」とありますが、私は山下議員が近づいて来たので立ち上がりました。

なお、両者同時に立ち上がったとは誰も言っていなかったと記憶しています。

● 2ページの2行目「その場における移動関連は概略図でお示ししますので、別紙ご参照ください」とあります。別紙の接触場所として示してありますが、山下議員から押された場所は、これより2メートルほど西側の場所です。

これ以外でも、この「事実認定における説明書」の記載において誤りと思われる点について回答します。

● まず、1ページの7行目から8行目にかけて「会派の所属員数で大きいものから順次エントリーが進む制度がとられており、最後に私(山下)に発言機会が回りました」とあります。監査委員については会派順に順次エントリーではなかったと記憶しています。

● 次に、1ページの20行目から22行目にかけて「エントリー時に議論できない



か議長に確認しましたが、できない旨を慣例によるものとし却下されました。そこで、意義（異議？）を唱える意味で私も敢えてエントリーをしました」とありますが、私の記憶では、却下されたからエントリーされたのではなく、山下議員はその前からエントリーされていたと記憶しています。

●最後ですが、1ページの5行目から6行目にかけて「調整が不調の場合は代表者会出席者の採決で決定される運びであると認識していました」とありますが、各派代表者会では「採決で決定される」とは誰からも発言されていませんでしたし、過去の人事協議においても監査委員が各派代表者会の採決で決定されたことはなかったと記憶しています。当日の各派代表者会に出席していた議員は、山下議員以外は採決で監査委員が決定されるとは、誰も認識していなかったと思います。

Q「櫻井委員」

先程らい、ここでの接触の場面について色々な方からお話をいただいたんですが、山下議員が立ち上がって少し小走りにだったかな、進んで松原議員の方に近づいて行ったという事なんですが、立ち上がった人が近づいてきて待ち受ける人としては、何らかのものを感じたと思うんですけど、近づいてくる場面のところでどのように感じられたか教えてください。

A「松原」

立ち上がる以前から興奮をされており、立ち上がった時も睨み付けるとゆうか、立ち上がって顔をしゃくり上げるような、口では何か言っているような感じで来られたもんですから、私もそれでは危ないと思って立ち上がらせていただきました。

Q「櫻井委員」

先日、松原議員が文字起こしをされた先日の資料の中で山下議員が立ち上がった場面は、どのあたりか分かりますか。

突然の質問で申し訳ありません。先程らいのご説明の中で、3ページの上から5行目のここで「押した。押した。」という事で、接触の場面としては、この4行目と5行目の間で接触があったということなんですけど、山下議員が立ち上がって松原議員の方へ近づいて来た場面というのは、この逐語録ではどこの部分のあたりになるのでしょうか。それをお尋ねするんですが、もし曖昧であれば

A「松原」

先程、櫻井議員が言われた、当たったというところは3ページ目の4行目5行目の間だと記憶しております。立ち上がったところは、……

「早川委員長」

もし正確に思い浮かばなければ保留していただいて結構ですので。

A「松原」

はい。

保留部分の回答

山下議員が立ち上がったのは、文字起こしでは、3ページ1行目の 山下（福祉、維新の会） 何言っとんだのあたりです。

「早川委員長」

よろしいですか櫻井委員。

Q「櫻井委員」

先程の質問の中で身構えるように立ってみえたので、身構えるというかそのですけども、言葉がちょっと違うかしれませんが、恐怖心とか何かされるかっていうふうな思いが近づいて見えた時に、たいていばあんと立ち上がってがって近づいてくると、「えっ」とか言うような形で身構えるんですけど、何かこう感じたものの中で、言葉があっているかどうか分かりませんが恐怖心とか何か危ない感じのものを受け取られましたか。

A「松原」

それは興奮してみえましたし、何かやられるのではないかという気はしました。それで座っていては絶対に危ないと思いました。恐怖心も感じたのは事実であります。

Q「花井委員」

その続きですけど、その恐怖心があったら、その今、陣矢さんの席であれば、たとえばあちらに入り口の方へも避難するとか逃げるっていうふうにも自分だったら考えられるんですが、丸山さんの方のところまで進んだのは事実ですか。

A「松原」

それは事実で御座います。

Q「花井委員」

そこまで歩いていく理由とか心境といいますかそれはどんな感じなんですかね。

A「松原」

立ち向かう、相手が来た恐怖心もありましてそのような心境でした。